

東京・京島宣言

全国町並み保存連盟は、2024年10月26日、27日の両日、創立50周年を記念する第47回全国町並みゼミを、東京・京島に隣接する千葉大学墨田サテライトキャンパスで開催、全国から集まった200名が、次の50年へ向け、あつい討論を繰り広げた。

京島は、関東大震災（1923）後に市街化した地区で、木造密集市街地としての整備が進められてきたが、かつて1000棟以上あった戦前の長屋は90棟前後まで減少、10年ほど前から若い人たちを中心に長屋を継承がする取り組みが行われてきた。本大会は、彼らが2020年から始めた「すみだ向島 EXPO」と連携して開催された。

1日目は、設立50周年を記念するトークを、三人ずつ三回に分けて行った。連盟を創設した妻籠・有松・今井の三人は、今も町並み保存のトップランナーとしての健在ぶりをアピール、町並み運動の息の長さを実感した。古くから町並みゼミに参加してきたベテラン三人からは、全国町並み保存連盟の存在意義やあり方について、率直な意見をもらった。「町並みは私が守る」を実践している活動家三人の活動ぶりに、大いに勇気づけられた。

2日目は、制度と防災という、喫緊の二つのテーマを取り上げ、各地の取り組みを出し合った。制度では、歴史的建物が形成する家並みに価値を見出す町並み保存を核としつつも、新旧の建物が混じり合う多様性を積極的に評価し、歴史的建物を守り歴史まちづくりを推し進めるという新たな視点が提起された。防災では、保全との両立という課題に対し、震災には建物の健全化、火災にはコミュニティによる防災活動という実践の報告があり、今後いっそうの情報交換と経験の蓄積に務めることを確認した。

会場となった京島で展開されている取り組みは新鮮だった。初日、参加者は最寄りの京成曳舟駅からまち歩きをして会場へ集結、続いて山本俊哉・明治大学教授、後藤大輝・一般社団法人八島花文化財団代表理事から、それぞれ「東京・向島の町並みの歴史」、「墨田京島における長屋継承の取り組み」と題する講演を受け、さらに50周年記念トークで登壇した紙田和代さんの「防災指標の向上だけでいいですか？」という問題提起、鈴木伸治・横浜市立大学教授の「京島からの報告」をうかがい、多くの困難や課題に臆することなく立ち向かい、クリエイティブに行動する勇気を学んだ。

1日目夜の交流会の、ソウダ・ルアさんのパフォーマンスでは、温かいご飯にキラキラ橋商店街のグルメをトッピングして頬張りながら、改めて商店街の存在意義を実感した。

世界で戦乱が続き、気候変動に襲われる中、歴史に根差し、美しく快適な町並みを目指すところこそが、私たちの未来をひらくことを確信し、明日からの行動に取り組む決意を新たにしました。

2024年10月27日 参加者一同